

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-5 環境保全の推進
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	下水道推進課長 稲田 栄	電話番号	0852-22-5932
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	汚水処理施設発生汚泥有効利用事業		
目的	(1) 対象	汚水処理施設利用者	
	(2) 意図	汚水処理施設で発生する汚泥を、再資源化など、より有効に利用することで、環境への負荷を低減し、併せてコスト縮減を図る。	
事業概要	汚水処理場への流入水を処理することに伴い発生する汚泥を有効利用する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	有効利用率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	汚泥の有効利用量／総汚泥量	目標値	82.00	83.00	84.00	85.00
			実績値	82.00	80.00	86.00	81.00		
			達成率		96.40	102.40	95.30		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
			目標値	0.00	0.00				
			実績値	0.00	0.00				
			達成率		0.00	0.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	238,877	298,578
うち一般財源(千円)	238,877	298,578

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成26年度も、宍道湖流域東部・西部浄化センターから発生する汚泥は、外部委託によりセメント原料、肥料原料及び炭化製品として全量を有効利用(再資源化)している。
 ・県内における汚泥有効利用率を地域別にみると、東部97%、西部35%、隠岐62%となっており、地域・市町村により差がある。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

流域下水道については全量を有効利用している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 市町村の中には、有効利用率が非常に低くほとんど埋立処分しているところもある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 ・市町村では小規模な処理施設が多く、発生する汚泥量も少ないことから、単独の市町村で再資源化施設を整備した場合、再資源化に係るコストが割高になるため。
 ・県内には、安定的かつ適正に再資源化可能な処理施設を有している事業者が少ないため。
- ③原因を解消するための「課題」
 ・単独の市町村で再資源化施設を整備することは、財政的な負担が大きい。
 ・外部委託により再資源化を図ろうとした場合、県内には事業者が少ないことから、県外事業者に依頼することが多くなり、運搬費等が割高となる。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・流域下水道から発生する汚泥を利用した製品化に係る試験が可能となる仕組みを設けるなど、再資源化を行う事業者の新規参入を促進する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）